



JAPANESE SOCIETY FOR INTERNATIONAL NURSING (JSIN)

国際看護研究会 NEWSLETTER No.85 (最終号)

2017



国際看護研究会 第83回 講演会

最終号の内容は以下のとおりです。ご愛読いただきありがとうございました。

- I 国際看護研究会第88回運営委員会報告
- II 国際看護研究会から日本国際看護学会への移行にあたって
- III 国際看護研究会会計報告
- IV 国際看護研究会第83回講演会
- V 事務局からのお知らせ

I. 国際看護研究会第 88 回運営委員会報告

第 88 回国際看護研究会運営委員会は 3 月 18 日（土）JICA 市ヶ谷ビルで開催された。第 19 回学術集会では 88,304 円の赤字会計となり、協議の結果会場費と設営費とで収入の 71.6%を占めており、不適正な支出はないため、これまでの前例と同様に研究会本体予算で補てんすることになった。

2017 年 4 月 1 日付で国際看護研究会は日本国際看護学会に移行するため、会計処理について協議した。何度も請求しても依然として 31 名の会費未納があること、会費過払い者については該当者に確認して対応予定である旨報告された。3 月分のインターネット関連支払いと最後の NEWSLETTER 発送に係る経費等あり、すべての支払いが終了してから学会に残金を移行することにした。学会化に関する準備状況、会則の確認について協議した。

II. 国際看護研究会から日本国際看護学会への移行にあたって 旧国際看護研究会代表 森 淑江

国際看護研究会は 2017 年 4 月 1 日に日本国際看護学会となり、新しい学会のホームページをご覧いただいた会員の皆様も多いかと思えます。

当研究会は 1996 年 3 月 23 日に発足し、21 年にわたって活動してまいりました。自分たちの行ってきた国際協力経験をこれから従事するであろう方々に生かしてもらいたい、いつまでも試行錯誤ではなく、より質の高い国際協力を行えるようにして行きたいなどという思いで 7 名で立ち上げました。国際協力推進協会（APIC）に申請して研究費を獲得して研究したり、定期的に講演会を開催したり、学術集会を開催したり、スタディツアーを催行したりと細々ながら様々な活動を行っており、今も引き続いて実施されております。また国際看護学確立のために教科書となるものを作成したいという願いは医学書院発行の「国際看護学入門」の出版により叶えられました。この本はその後多くの類書の「基」になっています。学会化については研究会として 5 年ほど経過したことから折に触れて議論されてまいりましたが、実践を大事にしたいという会員の思いと（会員のかなりの割合の方が国際協力に携わった経験をお持ちです）、学会にした場合「学（理論）」の視点からは大学教員が参加しやすくなり、その反面実践（経験）を大事にしたいという研究会が目指していたことと両立するのかと点について結論が出せないまま推移してきました。

しかしこれまで会員の皆様にご説明してまいりましたように、研究会として発展に限界があること、あるいは消滅してしまうのではないかという危機感もあり、様々な議論と会員の皆様の意向を確認させていただいた末に学会化の決断に至り、このたび日本国際看護学会が発足した次第です。大きく変わることは研究成果および活動成果発表の場として学会誌を定期的に発行することです。

日本国際看護学会では国際看護研究会の活動経験を踏まえ、国際看護の実践を大事にしながら、国際看護学の発展を目指してまいります。これまでの会員の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げますとともに、日本国際看護学会への引き続きの会員のご登録、さらなるご支援・ご協力・ご活動をお願い申し上げます。

Ⅲ. 国際看護研究会会計報告

2016年度 国際看護研究会収支報告書 (2016年4月1日～2017年3月31日)

| <収入の部> | | | | |
|-------------|---------------|---------------|------------------|---|
| 科目 | 予算額(円) (A) | 決算額(円) (B) | 差異(円) (B)-(A) | 備考 |
| 会費 | 492,000 | 464,000 | ▲ 28,000 | 3月31日現在 136名納入 |
| 定例会参加費 | 7,500 | 2,000 | ▲ 5,500 | 4人×@500=2,000 |
| 抄録等雑誌販売 | 2,500 | 0 | ▲ 2,500 | |
| 利子 | 50 | 34 | ▲ 16 | スーパー定期利子33円、普通預金1円 |
| 学術集会 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 寄付/その他 | 0 | 33,296 | 33,296 | ①講師謝礼寄付2名20,000円、②会費過払い寄付7名12,000円、③サクラネットへの2重払い返金分1296円(学会準備会よりラビッドSSL支払い返金) |
| 当期収入合計 | 702,050 | 699,330 | ▲ 2,720 | |
| 前期繰越金 | 543,362 | 543,362 | 0 | |
| 収入合計 | 1,245,412 | 1,242,692 | ▲ 2,720 | |
| <支出の部> | | | | |
| 科目 | 予算額(円) (C) | 決算額(円) (D) | 差異(円) (C)-(D) | 備考 |
| 通信費 | 83,674 | 96,668 | ▲ 12,994 | ①NTT:13ヶ月@648=8,424、②NL:4回=55,842(延べ681通)海外3880(延べ12通)、③宅急便872、④督促状:国内74人@82=6068、海外2人=180、⑤会費過払い者に返金案内8人@82=656、⑥入退会処理58人@52=3016、⑦最後のNL特別版(162+6+1)@92+海外2(160+190)=15,990、⑧レターパック代360円、ゆうパック代1380円 |
| ホームページ管理 | 139,299 | 168,243 | ▲ 28,944 | ①管理委託費(ゼネット):13ヶ月@10,800=140,400、②HP更改作業16,200 ③ドメイン取得・サーバー使用料(サクラ):9,699 ④SSLラビッドSSL RS(サクラ):1944(学会分) |
| 消耗品費 | 23,500 | 10,958 | 12,542 | ①講師ペットボトルお茶代=91、②NL透明封筒、NL用紙=10,847、③コピー用紙=20 |
| 講師謝礼 | 20,000 | 20,000 | 0 | ①会員:2人@10,000=20,000 |
| 講師交通費 | 0 | 0 | 0 | 運営委員のため無料 |
| 人件費 | 18,400 | 21,600 | ▲ 3,200 | NL作業等:5400円×4回=21,600 交通費なし |
| 会場費 | 8,400 | 9,000 | ▲ 600 | 2回@4,200=8,400、1回@600=600 |
| スタディツアー補助 | 0 | 0 | 0 | |
| 振込手数料等 | 1,000 | 972 | 28 | ①3回@216=648(森先生→齋藤先生、事務局→齋藤先生、大野先生)、②1回@324=事務局→大野先生 |
| 学術集会 | 200,000 | 200,000 | 0 | |
| 学術集会補填 | 0 | 88,304 | ▲ 88,304 | |
| 会費過払い返金 | 0 | 28,000 | ▲ 28,000 | 会費過払い者11名(内返金希望者4名16,000円。7名12,000円は寄付)なお返金は送料込の金額 |
| 学会化意向調査 | 22,512 | 9,360 | 13,152 | 学会意向調査180枚@52=9360 |
| 予備費 | 185,265 | 0 | 185,265 | |
| 当期支出合計 | 702,050 | 653,105 | 48,945 | |
| 当期収支差額(過不足) | 0 | 46,225 | ▲ 46,225 | |
| 前期繰越金 | 543,362 | 543,362 | 0 | |
| 学会への移行金合計 | 543,362 | 589,587 | ▲ 46,225 | |

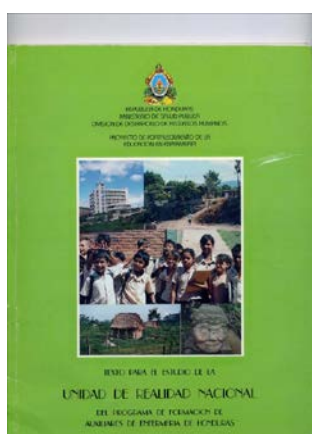
IV. 国際看護研究会第 83 回講演会 「国際看護研究会のこれまで、そしてこれから」

【講師】 森 淑江先生（国際看護研究会代表 / 群馬大学大学院保健学研究科 教授）

【日時】 2017 年 3 月 18 日(土) 13 時～15 時

【会場】 JICA 市ヶ谷 201 AB 会議室

1994 年 8 月に 2 年間の JICA 専門家としての技術協力活動を終えて帰国当時、私は任国であるホンジュラスにとって役に立つことができたのかという思いを抱えていました。日本国内で看護教育に従事した経験はありましたが、



ホンジュラス初の看護の教科書

今から思えば恥ずかしいことに赴任当初はプライマリヘルスケアさえ正しく理解しておらず、スペイン語は赴任前の研修での 3 週間と赴任途中のメキシコでの 4 週間の学習したのみでホンジュラスに赴任しましたが、合計 7 週間の学習では業務をこなすにはほど遠い状態でした。それでも少しずつ現地に慣れ、仕事にも慣れ、試行錯誤を繰り返しながらホンジュラスで初めての看護の教科書をカウンターパートと協力して完成させることができ、2 年間の活動を終えて日本に帰国しました。しかし 2 年間は何かあったのかというもやもやした気持ちは続いていました。

帰国して 5 か月経った時に阪神・淡路大震災が起りましたが、その時にホンジュラスではハリケーン災害が起こるとすぐに教員や学生が救援活動に出ていることを思い出し、私も行かなくてはと神戸市内でも火災の被害が大きかった鷹取地区にあった半分焼失した病院に 9 日間応援に入りました。この時に感じたことは「行動しなければ何も始まらない」ということでした。またこの頃国際協力に従事した大学の同窓生と話す機会があり、同様の悩みや疑問を持っていることを知り、ちょうど立ち上がったばかりの千葉看護学会の第 1 回学術集会分科会として「看護の国際協力」を提案して採用されました。1995 年 11 月に開催されたこの学術集会分科会では、国際協力を経験した看護職者は多いのに、経験が伝えられていない、生かされていないという意見が多く聞かれ、人材ネットワーク、情報の集積と活用ができるよう整備、研究の重要性が確認されました。分科会に集まった参加者が中心になり 1996 年 3 月 23 日に国際看護研究会を設立し、分科会に参加した当時の千葉大の 3 人の教授が顧問となってくださいました。



初の国際看護の本

当初の活動は3か月に1回の講演会開催でしたが、設立2年後から学術集会を年1回開くようになり、昨年11月までに19回を数えました。APIC（国際協力推進協会）の研究費補助金を獲得してワーキンググループによる研究活動を行い、研究成果を学会や論文として発表、3年に1回のスタディツアー、念願だった国際看護学確立のための初の書籍「国際看護学入門」を医学書院から発行し、これはその後いくつも発行された類書の基になったと自負しています。2006年には10周年記念誌も発行しました。

日本の行う国際看護協力の全体像を初めて明らかにし、「国際看護」という言葉を定義づけ、国際看護という分野の概要を提示し、国際看護という分野の周知に尽力してきました。このように国際看護研究会はこれまでの21年間に日本の中で一定の役割を果たしてきたと自負しています。

しかし国際看護研究会が活動を続ける中で、学会と異なり構成員は国際協力活動の実践者が多く、長期に渡って海外に行く会員も少なからずいるため研究活動が進まず、国際看護学の発展になかなか結び付かないこと、研究会の運営を担う人材の確保が難しいこと、論文が出せないため大学教員にとっては業績にならず魅力が乏しいこと等多数の問題があり、存続が危ぶまれていました。設立から5～6年経った頃から学会にしませんかと日本看護系学会協議会からのお誘いがあったり、会員からも検討を促されてきましたが、研究論文誌を出せるほどの人材（研究者）が少なく、また設立当初の国際協力活動の実践を大事にしたいという意向もあり、学会化へとは進みませんでした。



第1回スタディツアー（スリランカ）



第1回学術集会

しかし年数を経るにつれて徐々に限界を感じ、運営委員会で協議の結果2015年3月に学会化検討のワーキンググループを立ち上げ、2016年4月に会員に対して学会化に関する意向調査を行いました。そして回答者の大半が学会化に賛成という結果を受けて2016年11月26日の総会で学会化を提案し、承認されました。

国際看護研究会の会員は看護職または看護学生に限ってきましたが、新たに発足する日本国際看護学会では会員は国際看護に関心をもつ者とし、看護職者以外にも入会可能です。2017年4月1日から入会申し込みは可能で、2016年度会費納入済の国際看護研究会会員は学会員として移行登録ができます。入会申込や研究会会員から学会員への移行登録をはじめ、多くの手続きはHP上 <https://www.jsin.jp> で行うことが大きな特徴です。学会内には5委員会（雑誌編集、教育活動・研修、研究、国際活動、広報）を設けて色々な活動を行います。念願の研究雑誌発行のために論文投稿は7月～9月に受け付け、2018

年3月に電子ジャーナルを発行します。また、第1回学術集会は2017年11月11日(土) JICA 横浜で開催予定です。

日本国際看護学会では国際看護「学」のさらなる発展を目指しており、これは様々な分野で活用可能な概念です。また国際看護の実践を記録してその中から教訓を得ること、将来国際看護を担う人材の育成を行うこと、国際看護協力を行う人材の育成や国際看護協力活動に(何らかの)貢献をすること、世界の看護職者・団体・学会と連携することを目指しています。

これまでの国際看護研究会へのご支援を感謝するとともに、日本国際看護学会発展のためにご協力をお願い申し上げます。

V. 事務局からのお知らせ

国際看護研究会は2017年3月31日をもってなくなり、4月1日から日本国際看護学会となりました。国際看護研究会として使用していた郵便振替口座は閉鎖され、e-mailも使用停止となっています。

なお2016年度までの会費を2017年3月31日までに納入し、日本国際看護学会に入会申請をされた方は会員として継続されるため、入会金を免除します。日本国際看護学会の入会金は2,000円、年会費は8,000円です。

年会費未納の方は日本国際看護学会入会申請をしていただき、理事会で審査後に入会金および年会費を納入していただいた後に会員となります。

いずれも登録申請は以下のURLにアクセスし、HPからお願いします。年会費振込についてはご登録いただいた方にご連絡します。

<https://www.jsin.jp/index.html>

長年にわたる国際看護研究会へのご参加・ご活動に感謝申し上げますとともに、引き続き日本国際看護学会もよろしくようお願い申し上げます。



国際看護研究会 NEWSLETTER No.85 (最終号) 2017

2017年5月15日発行
発行元 国際看護研究会事務局

無断複写複製不可